

令和2年度 学校だより



令和3年1月8日(金)

御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

E-mail:

1月号

[onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp](mailto:onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp)

## 「新しい年」に誓う 「世の中の平和」は「家族愛」から

2021年、令和3年が始まりました。本校では、1月6日に3学期の始業式が終わり、いよいよ授業が本格的にスタートしました。短い冬休みを元気に過ごして、また、元気いっぱいの子供たちが学校に戻ってくると、教員の私たちまでその元気をもらい、活力が生まれてきます。本年も、教職員一同、子供たちの幸せのために全力で教育活動を行っていきます。どうぞ、保護者の皆様、地域の皆様の御理解と御協力、そして、より一層の応援をよろしくお願いいたします。

令和2年は、コロナ禍の中で、世の中全般の不安が子供たちの生活に少なからず影響を与えてきました。それでも、「今できる最善のことを」みんなで力を合わせて行ってきたことがたくさんありました。また、今までの『当たり前』をみんなで見つめなおす機会にもなりました。本校の教育活動も同様です。ここに人の力のすばらしさを感じます。決してあきらめない、力強さを感じます。

1979年にノーベル平和賞を受賞した『マザーテレサ』は、受賞発表の記者会見でこのように述べています。「世界平和のために、私たちはどんなことをしたらいいですか。」とインタビューした記者にこう返しました。「家に帰って家族を愛してあげてください。」

大きなことを成し遂げるには、足元の身近なことを見つめることから始まると考えます。世の中の平和のためには、まず家族の平和を、と答えたマザーテレサの言葉に、私は深い共感を覚えました。家族への愛情をどう伝えるか。まず、「ありがとう」を伝えることだと思います。コロナウイルスの感染状況は拡大の一途をたどっています。不安が続く中ですが、「ありがとう」をくちぐせにして、みんなで励まし合って生きていきたいですね。

これは、12月号でお知らせした、鳴門教育大学の久我直人教授の講話である「幸せの多い学校づくり」にもつながっています。

今年も幸せな一年になりますように、いやいや、もっと主体的に、みんなで幸せな一年をつくっていきましょう。どうぞ、よろしくお願いいたします。



★★★ 久我教授の講話を聴いて考えたこと 5年の自分からノートより ★★★

☆私は「自分から行動する御一小」にしていきたいです。一人一人が自分で考えてよい行動ができれば、もっといい学校になると思ったからです。そして、みんなで助け合って協力できる学校をつくってきたいです。(高戸ミユキさん)

☆私は、ちょっとしたことで「ありがとう」が言えるような、優しく幸せな雰囲気の学校にしたいです。「ありがとう」は言われた人も言った人もいい気持ちになり、学校全体が幸せで優しい雰囲気に包まれるからです。(戸塚凜さん)

( マザーテレサと誕生日が同じことがとってもうれしい 校長 増田久美子 )

